

旧下村家住宅

旧下村家住宅は、和釘が使われていたことから、江戸時代後期に建てられた可能性が高いです。

この住宅は、上から見るとCの字型の茅葺き屋根が特徴の塩田津でも数少ないくど造りの住宅である。幹線道路に面した建物の前面が比較的狭いのは、正面デザインが間口を取らないため、居住者の税金が安くなったからです。その代わりに、建物は縦に伸びています。敷地の中央にある小さな庭を中心に造られたC字型のデザインは、細長い構造物に光を取り入れることができます。

当初はこんにゃく屋から始まり、大正時代には海運業、昭和時代には自転車屋へと変わっていききました。

下村龍吉は、衛生上の問題があった時代に、飲料水の確保と住民への水の運搬システムを考案したことで、塩田津で尊敬されていた下村家の家長です。1955年（昭和30年）には、その功績を称えて記念碑が建立されました。

平成19年に嬉野市に寄贈され、現在は塩田津ゆかりの文化交流の場として利用されています。平成20年7月1日に市の重要文化財に指定されました。